対話としての英語表現力の育成
ー言語使用者としての発達を目指してー

関連するSDGsの国際目標

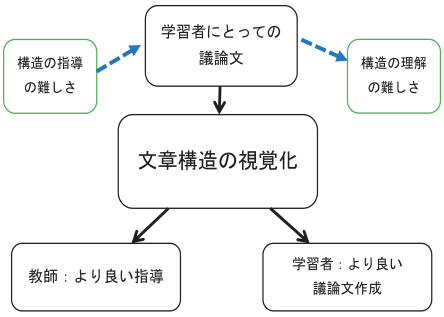


全学共通教育推進機構　　准教授　　坂本　輝世
研究分野：外国語教育論、ライティング教育

概要：日本語を母語とする英語学習者が、リーディング／ライティング学習によって対話としての英語表現力を発達させるためには、どのような指導・援助が可能か、また、そのような英語表現力を育成することの利点は何なのか、について研究しています。

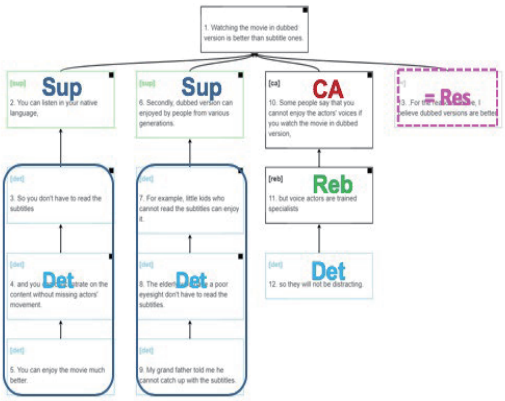
■ 英語ライティング学習における「構成・組織化」の問題

日本語母語話者である英語学習者の書く議論文について自分の立ち位置をはっきりさせなかったり、議論の一貫性に欠けたりする傾向が指摘されてきています。しかも、構造面での問題は文法や語法に比べても指導が難しく、説明だけではなかなか学習者に理解されにくいことも、これまでの研究で明らかになっています。そこで、学習者の書いた議論文を図式化し、視覚的に自分のテキストを俯瞰することで、より良い指導と学習が可能になるのではないか、という仮説に基づく研究をしています。



■ 樹状図による文と文の繋がりへの気づき

TIARAという注釈ツールを用いると、学習者の書いた英語パラグラフの文の配列を図式化し、英語の議論文として不適切な文の流れを明示できます。これによって学習者の理解を助け、ひいては、注釈ツールの力を借りなくても学習者が文を適切に配列することができるようになるかどうかを実証的に確かめようとしています。



樹状図の一例

■ 対話としてのリーディング／ライティング

同時に、このような問題は、日本語と英語のいずれにおいても「対話する」という視点から議論文ライティングを学んだ経験が少ないことが一因ではないか、という視点に立ち、「批判的な読み」に基づいて自分の立場を明確にしつつも、他者との対話として議論を行い、他者の声を取り入れながら自分の声を作り上げていくためには、どのような気づきが必要なのか、その過程を観察し分析する質的研究も行っています。

■ SDGsとのかかわり

英語を日本語に、また日本語を英語に置き換えるだけなら、機械翻訳で事足ります。しかし、それぞれの言語がどのような論理構造を前提とし、どのようなスタイルを心地よく感じるか、という違いに気づかなければ、本当の意味での理解も発信もできません。さらに、同じ言葉を使うもの同士でも、相手が自分とは異なる経験と価値観をもつことを自明の出発点としなければ、他者との対話はできません。

迂遠なようですが、対立の解消が容易でない問題（例えばジェンダー平等、不平等の是正など）について考えるときにも、私たちの使う言葉そのものが、様々な対立する視点と声によって成り立っていることを知り、さらには、そのような対立を含み込むことのできる言葉を一つ一つ創り出していくことが重要だと思っています。